



芦屋室内合奏団 第 58 回定期演奏会

創立 60 周年記念

Ashiya Chamber Orchestra

2025.10.13 (月)

14:00 開演 (13:15開場)

うはらホール 神戸市立東灘区文化センター

Program

ヴィヴァルディ ヴァイオリン協奏曲「ラ・ストラヴァガンツア」
Op.4-1 変ロ長調 RV383a

ウォーロック カプリオール組曲

ヘンデル 合奏協奏曲 作品6 第8番 ハ短調 HWV 326

< 休憩 >

モーツアルト 弦楽四重奏曲 第3番 ト長調 K156 弦楽合奏版

チャイコフスキー 弦楽セレナーデ ハ長調 Op.48

ヴァイオリン独奏 松川 堯彦（コンサートマスター）
指揮 酒井 瞳雄（相愛大学名誉教授）

Program Notes

ヴィヴァルディ (Antonio Vivaldi) ヴァイオリン協奏曲『ラ・ストラヴァガンツア』 Op.4-1 RV383a

ヴィヴァルディといえばヴァイオリン協奏曲「四季」作品8が有名であるが「ラ・ストラヴァガンツア」作品4も同様に全12曲のヴァイオリン協奏曲集である。タイトルの「ストラヴァガンツア」は奇想天外・突飛さなどを意味し、当時としては演奏者が思いのままに演奏してヴァイオリンの表現力を最大限に引き出し聴衆を魅了するような意味合いの音楽となっている。本日演奏する第一番は独奏ヴァイオリンの華やかな技巧と抒情的な旋律が交互に展開される構成が特徴であり、特に中間楽章は穏やかで歌うような旋律が印象的である。バロック音楽の魅力を堪能できる一曲で、豊かな音楽体験を提供してくれる作品である。

第1楽章 Allegro 速いテンポで活気に満ちており技巧的なパッセージや強弱の対比が目立つ

第2楽章 Largo 穏やかなメロディが広がり深い情感を表現して美しい

第3楽章 Allegro 活発なリズムとエネルギーッシュな旋律が特徴的でフィナーレに向けて盛り上がる

ウォーロック (Peter Warlock) カプリオール組曲

イギリスの作曲家ピーター・ウォーロックが1926年に作曲した組曲で彼の代表作の一つである。

16世紀ルネサンス時代のフランスの舞踏書「オルケゾグラフィ」はこの時代のダンスの踊り方を楽曲と共にまとめた指南書で、ウォーロックはそこに記された舞曲を原曲に近い形で使用してこの組曲を創作し、古楽への回帰という当時の音楽の流れの中で注目を集めた。カプリオールとは「跳躍」を意味するバレエのジャンプ技で、片足で踏み切ってジャンプし、空中で両足を打ち合わせてから、踏み切った足で着地する動きを指す。

法律家でお嬢様方との付き合いが苦手な青年が、先生からダンスを習うという二人の対話形式で話が進む。



- ・バス・ダンス（第1曲）「低い踊り」の意味で、足を床にすべらせるように踊る。当時繁栄した宮廷では男女のペアが行列を作り秩序ある厳かな雰囲気の中で踊られたという。
- ・パヴァーヌ（第2曲）北イタリアの古都パドヴァを語源とするイタリア起源の2拍子の踊りで男女のペアで威厳のある行列をつくって踊られる。
- ・トゥルディオン（第3曲）16世紀の前半に盛んであった3拍子のフランスの踊りで、リズムは「タタタ タッタ」という軽快な踊りである。
- ・プランル（第4曲）「揺れる」を意味するフランス語「プランレ」に由来しており、陽気で誰にでも踊ることができて基本的には男女の組みが輪を作って左回りに踊るいわゆる「輪舞」であった。
- ・ピエ・アン・レール（第5曲）ダンスで重心を片脚にかけた際に残った空中にあるもう一方の脚のことを指し、足を高く上げる動作が特徴的なダンス。浮遊感があり、ゆったりとした舞曲である。
- ・マタシャンーソード・ダンス（第6曲）踊り手たちは小さな胴鎧をつけて、右手に剣、左手には盾を構える2拍子の独特的な旋律で踊り、剣と盾のガチガチ鳴る音を伴う剣舞である。

ヘンデル(George Frederick Handel) 合奏協奏曲作品6 第8番 ハ短調 HWV 326

ヘンデルの代表作の一つである「合奏協奏曲集作品6」の中の作品で、他の曲とは異なり一貫してハ短調という暗い色彩で描かれているが、時折現れる明るい旋律との対比が美しい。その中に深みのある美しさとドラマティックな展開が凝縮されており全曲が一つの物語のようである。アリアや舞曲が連続して現れ、それぞれが持つ特徴的なリズムや旋律が豊かな表情を与えていた。華やかさよりもむしろ静謐な美しさが特徴で、心の奥底にある感情に触れることができる。

- 第1曲 アレマンド 堂々とした中にも教会での祈りと対話のようにこの物語が始まる
 第2曲 グラヴェ 緩やかなテンポで莊重さに満ちており深みのある旋律が莊重に歌われる
 第3曲 アンダンテ アレグロ 独奏部と全奏のダイナミックな対比があり群衆のざわめきが聞こえる
 第4曲 アダージョ 静かで穏やかな美しい旋律が心に響く
 第5曲 シチリアーナ 民俗舞曲のゆったりとしたリズムが特徴で懐かしい田園的な情景を思い起こす
 第6曲 アレグロ 終楽章は再び活発なリズムで簡潔にこの物語の幕を閉じる

モーツアルト(Wolfgang Amadeus Mozart) 弦楽四重奏曲 第3番 ト長調 K156 弦楽合奏版

モーツアルトが16歳頃のイタリア滞在中に作曲されたミラノ四重奏曲と呼ばれる弦楽四重奏曲の中の作品で、モーツアルトの若き才能が光り彼の作品の中でも特に明るく親しみやすい曲として知られている。繊細で緻密な内容は洗練されており、若いモーツアルトの成熟した音楽的感受性と若々しい創造力がうかがえる。青い空を反映したような輝きと一時的な幸福の瞬間を捉えたような永遠性を持つと評されている。

- 第1楽章 プレスト モーツアルト特有の透明感と軽快さがある
 第2楽章 アダージョ 瞳想的で情感的な雰囲気を持ち豊かな感情表現が心を揺さぶる
 第3楽章 メヌエット 舞曲風のリズムが特徴で楽しげで活発なムードが全体を通じて保たれている

チャイコフスキイ(Pyotr Il'yich Tchaikovsky) 弦楽セレナーデ ハ長調 Op.48

チャイコフスキイが1880年に作曲した弦楽合奏のための作品で、彼の代表作の一つとして広く親しまれている。モーツアルトへの深い敬意を表して作曲したといわれ、心に響く美しい旋律が特徴である。作品の冒頭は特に有名でどこか懐かしく心に沁み入るような美しさがあり、全曲を通じて情熱と切なさが溢れており特に第3楽章のエレジーは弦楽合奏の曲の中で最も美しい作品のひとつといわれるほど叙情的である。“古典派”モーツアルトへの秘められた憧れがこの名曲を誕生させ、ただ美しいだけではない高貴で華やかな響きが多くの人々を惹きつける。弦楽だけでここまで深さを表現できるのが驚異的であり聴く人を魅了する。

- 第1楽章 華やかで明るい雰囲気を持ちチャイコフスキイらしい抒情的な旋律が印象的
 第2楽章 チャイコフスキイはワルツの名作を多く作曲しているがその中でも特に有名な曲の1つ
 第3楽章 エレジーと題された緩やかな楽章で一瞬の静寂は息を呑むような美しさを感じる
 第4楽章 続けて演奏されロシア民謡で静かに始まり次第に高揚して壮大なスケールで作品を締め括る

Ashiya Chamber Orchestra

1965年5月、神戸大学交響楽団OB・学生10数名が当時の響友会（OB組織）会長の橋本宗夫氏の芦屋の邸宅に集まり芦屋室内合奏団が誕生しました。いつも気負った所がなく、発表会といつても派手な宣伝はなく、入場料もとらず、淡々と練習を重ね、その成果をお聴きいただきてきました。今年は創立60周年を迎える半世紀を超える長い年月の間に団員の入れ替わりも多くありましたが、アマチュアでも質の高い音楽を演奏するという発足当時の熱い想いが、当団の活動の原動力として途絶えることなく受け継がれています。

ご指導してくださる指揮者・トレーナーの諸先生、演奏会にいらしてくださるお客様、活動を陰で支えてくださるホール・練習施設・演奏会スタッフの皆様、団員をサポートしてくれる家族、多くの方々のご協力とご支援あっての賜物と心より感謝しております。

これからも関西地区で最も歴史のある室内合奏団の一つとして活動を続け上質な音楽を目指してまいりますので引き続き皆さまの温かいご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

Conductor 酒井 瞳雄 指揮、音楽監督

桐朋学園女子高等学校音楽科(男女共学)を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を齋藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F.フックス各氏に師事。1971年4月より2016年3月まで相愛オーケストラ指揮者。1977年ザルツブルクにてO.スヴィトナー氏に師事。同年、東京にてS.チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いて、ドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団団員とともにニューアイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。

2005年第19回京都芸術祭音楽部門京都府知事賞受賞。相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、1974年より芦屋室内合奏団音楽監督、高知大学医学部管弦楽団常任指揮者、京都薬科大学管弦楽団常任指揮者をつとめるなど、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。2016年4月より相愛大学名誉教授。2019年8月より青山音楽賞選考委員。



Members

ヴァイオリン	伊藤 優子	井上 慶浩	古賀 美里	白石 知哉	野田 由美
	橋本 栄子	古田 秀雄	堀田 純子	松川 堯彦	
ヴィオラ	井上 昌子	鈴木 道子	鈴木 雄二	福島 透	
チェロ	阿江 愛	阿江 馨	中井 敏雄	野田 太郎	
コントラバス	川上 達文	末松 秀樹			
チェンバロ	小津 久子				

Officials

団長	鈴木 雄二	コンサートマスター	松川 堯彦
事務局	堀田 純子	会計	古賀 美里
監事	末松 秀樹		

団員募集中

ヴァイオリンパートの団員を募集しています

詳細は団ホームページをご参照ください

